ODU NEWS No.160 2011年1月31日

≪ 目 次 ≫

・創立100周年記念事業	・技工士の西村(謙)さん文部科学大臣表彰 …7
★ニューヨーク大学 in 大阪歯科大学 ·····3	·寄 贈 ·······7
★日中韓学術大会 ・・・・・・・・3	・学位(歯学)授与報告 ・・・・・・・・7
・創立100周年記念マスコットが決定 ・・・・・4	・いい歯の日(11月8日)関連記事・・・・・8
・楠葉学舎に創立100周年「横断幕」5	・第6回 人権標語入賞者 ・・・・・・8
・平成 22 年 秋の褒章・叙勲受章者 ・・・・・5	・シドニー大学学生訪問 ・・・・・・・9
・故織田正豊名誉教授に従五位 ・・・・・・5	・平成 23年 新年互礼会年頭所感
・第42回 大学祭 ・・・・・・・・・6	理事長・学長 川添堯彬 · · · · · · 1 C
・平成 23 年度 一般入試前期実施 ・・・・・・・6	・創立100周年記念事業募金
・平成 22 年度 実験動物慰霊祭 ・・・・・・・6	寄付状況報告 · · · · · · · · · · · · · 20
・平成 22 年度 自衛消防訓練 ・・・・・・・・6	•人 事 ······23
・平成 22 年度 教職員忘年慰労会 ・・・・・・・7	・あとがき23



創立100周年記念事業「日中韓学術大会」覚書の調印式(大阪国際会議場・11月23日)

創立 100 周年記念事業 「ニューヨーク大学 in 大阪歯科大学」

10月16,17日の両日,大阪歯科大学天満橋学舎において,創立100周年記念事業「ニューヨーク大学in大阪歯科大学」が開催され,歯学関係者107名が出席した。

開会に当たり、川添堯彬理事長・学長がニューヨーク大学の協力を得て開催することになった経緯などを述べた後、ニューヨーク大学のケンドール・ビーチャム副学長が挨拶した。講演では、スチーブン・チュー氏ら4人の講師により歯科医療をとりまく最新の学術情報が紹介された。参加者から活発な質疑もあり、盛況のうちに講演会は終了した。

また、初日の夜には天満橋学舎の「プラザ14」において、大阪歯科大学およびニューヨーク大学の関係者、 講演会参加者による懇談会が開かれ参加者が親交を深めた。



川添理事長・学長とビーチャム副学長



関係者一同記念写真

創立 100 周年記念事業 「日中韓学術大会」

11月23日(祝),創立100周年記念事業「日中韓学術大会」が大阪国際会議場で開催された。本学と学術協定を結んでいる上海交通大学口腔医学院,慶熙大学校歯科大学ならびに大阪歯科大学の6名の講師が学術報告を行った。この学術大会の実現には,3年間にわたる神原教授はじめ国際交流部の地道な努力があった。

大会テーマ「アジアの姉妹校から世界の歯科界への発信」に基づき,第1部「日中韓歯科事情について」,第2部「先進的歯科医療について」をテーマに各国から発表があった。会場には,本学同窓会会員など関係者143名が参加し、熱気にあふれた学術大会となった。

学術大会開催に先立ち、上海交通大学口腔医学院、 慶熙大学校歯科大学ならびに大阪歯科大学の間で、 「日中韓学術大会」を2年ごとに継続して開催する趣旨 の覚書の調印式を行った。

創立 100 周年記念事業「日中韓学術大会」

◇第1部「日中韓歯科事情について」

○報告者:神原 正樹(大阪歯科大学)

○報告者:馮 希平(上海交通大学口腔医学院) ○報告者:Park Yong-Duk(慶熙大学校歯科大学)

◇第2部「先進的歯科医療について」 ○報告者:清水谷公成(大阪歯科大学)

○報告者:張 陳平 (上海交通大学口腔医学院)



開会の挨拶をする川添理事長・学長



Joon-Bong Park 慶熙大学校歯科大学学長

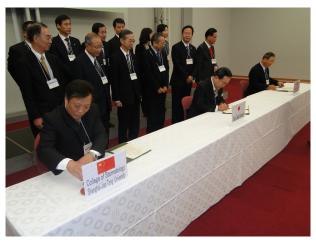
張 建中 上海交通大学口腔医学院副院長



第2セッション演者表彰(左2番目清水谷教授)



白熱討論(神原教授=写真左と小谷教授=写真右)



「日中韓学術大会」覚書の調印式

創立 100 周年記念マスコットが決定

創立100周年を記念して「マスコットキャラクター」の募集を学内の教職員および学生から行い、63件の応募作品のうち最優秀作品には大学庶務課の牧谷弘幸さんの「ししんさん」が選ばれた。

佳作には、総務課の赤石孝博さん、2年生の石川裕子 さん、臨床研修医の道明千朱さんの作品が選ばれた。



★ししんさん (歯神さん)

- ・歯の神様をイメージした愛らしいキャラクター。
 - ・ペンと本で学び舎 を表し、大学のシ ンボルマークやも 科器具を配置し、 雲の船は世界を駆 け巡る大学を表現 している。





互礼会での表彰式(上・最優秀作品の牧谷さん)

楠葉学舎に創立 100 周年「横断幕」

創立100周年を期して、楠葉学舎テニスコートに「横 断幕」が設置されました。京阪電車の車窓からよく見 え好評です。同じく天満橋の病院にも「垂れ幕」を設 置し、樟葉駅ホームの看板も新しくしました。







平成22年 秋の褒章・叙勲受章者

平成22年秋の褒章・叙勲において,大阪歯科大学関係者として以下の先生方が受章されました。

叙 勲

大学 1 回	岩橋	成泰	和歌山県	旭日双光章
大学 3 回	可兒	瑞夫	大阪府	瑞宝小緩章
大学 3 回	清村	寬	関東支部	瑞宝中緩章
大学 3 回	日野	祐之	広島県	旭日双光章
大学 6 回	原	宏之	徳島県	瑞宝双光章
大学 8 回	高橋	純孝	東北支部	瑞宝双光章
大学 9 回	岸	直樹	大阪府	旭日双光章
大学 9 回	重田	司郎	山口県	旭日双光章
大学 10 回	和田	透	兵庫県	旭日双光章
大学 11 回	福井	勝男	岐阜県	瑞宝双光章
大学 12 回	高	義雄	石川県	瑞宝双光章
大学 12 回	松井	成一	滋賀県	旭日小緩章
大学 13 回	奥村彗	Ě都雄	滋賀県	瑞宝双光章

故織田正豊名誉教授に従五位

先ごろ亡くなられた本学名誉教授の織田正豊先生に 日本政府から9月12日付で「従五位」が贈られ、川添理 事長・学長からご長男の和博氏に伝達されました。

織田先生は口腔解剖学講座の教授として長年,本学の教育に尽力されました。



第42回 大学祭

第42回大学祭が下記の日程で行われた。

体育祭:10月23日(土)

楠葉祭:10月30日(土)~31日(日)

なお、楠葉祭初日の30日に今年度第4回目の「オープン・キャンパス」を開催し、40名(内・学生24名)の参加者があった。今年度のオープン・キャンパスはこれで全日程を終了し、全体で221名(内・学生122名)の参加があり、昨年とほぼ同数であった。



平成 23 年度 一般入試前期実施

平成23年1月29日(土)に平成23年度一般入試前期日程が行われ、募集定員約80名に対し170名が受験しました。

平成 22年度 実験動物慰霊祭

今年度は学部学生の授業時間割に影響の無い日程としたため、例年より2ヵ月遅い11月26日(金)に開催された。当日は、秋日和に恵まれ木々の葉も色付いた牧野学舎の動物慰霊塚前にて清岸寺導師の続経とともに嚴かに執り行われた。

歯科医学教育と研究のため, その身を捧げた動物た

ちの冥福を心より祈り,多数の教職員,大学院生,学 部学生が焼香を行い,最後に豊田副学長の発声により 参加者全員が黙祷を捧げ,平成22年度実験動物慰霊祭 は無事終了した。

平成 22年度 自衛消防訓練

平成22年度の自衛消防訓練が,11月29日(月)午後4時より楠葉学舎において枚方東消防署員6名の立会いのもと,川添消防隊長以下約100名の教職員が参加し,本学の防火管理体制を充実させるために行われた。

訓練は,前年同様5号館1階事務所内「給湯室」から 出火したとの想定で,第一発見者が火災を発見し,大 声で周辺に知らせ,初期消火をし,火災発生を連絡す る通報訓練から始まり,各要員が①避難誘導 ②警戒 ③搬出 ④工作 ⑤救助等の役割を果たしながら,速や かに副門守衛室前へ避難した。無事に各班が全員避難 したことを確認した後,消防署の方の指導のもと,水 消火器と屋内消火栓による⑥初期消火訓練を行った。

消防署より、「避難の際に声が出ていない」「5号館で火災が起きている時に、他の号館の人は避難するのでなく、5号館の人を助けに行ってほしい」との講評を受けた。また、AED(自動体外式除細動器)の使用方法の指導を受けた後に、消防署による「はしご車訓練」を行った。

最後に川添消防隊長から,本日の訓練の成果を踏ま え,火災予防に役立ててほしい旨の要請があり,訓練 のすべてを終了した。



平成22年度 教職員忘年慰労会

12月28日(火)午後3時から,恒例の教職員忘年慰労会が「プラザ14」で開催され,250名を超える教職員が参加しました。

川添理事長・学長から開会の挨拶があり、この1年間の教職員の働きを慰労するとともに、来る創立100周年に向けて教職員のさらなる協力を要請しました。続いて、下村常務理事の乾杯の音頭により忘年慰労会はスタートしました。

しばらく歓談のときが流れ、お楽しみ抽選会では、 理事長賞(旅行券)が歯科衛生士専門学校の頭山さん、 学長賞(商品券)が技工士の西村(謙)さんに贈られ ました。最後に、田中常務理事から中締めの挨拶があ り、様々な感慨とともに1年が終了しました。



理事長賞の頭山さんと川添理事長・学長



乾杯の音頭をとる下村常務理事

技工士の西村(謙)さん文部科学大臣表彰

平成22年度医学教育等関係業務功労者に歯科技工士の西村 謙さんが推薦され、選考の結果、功労者に決定しました。11月30日に東京で表彰式が開催され、西村さんも出席し文部科学大臣表彰を受けました。この章は、医学教育等の関係業務において特に功績が顕著な方々に贈られるもので、昨年の加地さんに続き2年連続の受章となりました。(最後列中央・西村さん)



書 贈

下記の寄贈を受けましたので報告します。寄贈いただいた各位には心より感謝いたします。

・大阪歯科大学専門第30回卒業生(みとわ会)

卒業60周年を記念して平成22年10月24日寄贈100周年記念事業基金として60,000円

学位(歯学)授与報告

加藤 尚子 乙第1553号 (平成22年12月22日)

Effects of ERK by TNF- α in deciduous dental pulp fibroblasts (乳歯歯髄由来線維芽細胞における TNF- α による ERK の影響)

田中 芳人 乙第1554号 (平成22年12月22日)

Effect of GaAlAs semiconductor laser irradiation on the permeability of dentin and survival of dental pulp cells (半導体レーザーが象牙質の透過性と歯髄細胞におよぼす影響)

いい歯の日(11月8日)関連記事

いい歯の日(11月8日)に関連して,本学教員がテレビ出演あるいは新聞に記事が掲載されましたので紹介します。

○高齢者歯科・小正教授「NHK」に出演

11月8日(月),NHK大阪放送局の夕方6時10分からのニュース番組「ニューステラス関西」において、高齢者歯科学講座の小正 裕教授がインタビュー取材で出演しました。



「いい歯の日」にちなんだ高齢者の歯や口腔ケアの特集で、小正先生は高齢者の口腔ケアの重要性について解説しました。

番組では、高齢者向けの口腔全体を清掃する歯ブラシや歯の訪問診療の様子が紹介された後、専門家の立場で小正先生は最近、よく言われている肺炎を取り上げました。「寝たきりなどの人が、夜中に知らない間に口の中の汚れを肺に取り込んでおり、それによって肺炎を発症するということが今言われています。高齢者にとってお口の中をきれいにしておくことは大変重要です。高齢者のお口の中は個人個人で違い非常に複雑で、自分では一生懸命磨いているつもりでも、『歯を磨いている』ことと『歯が磨けている』ことは違うので、専門の歯科衛生士さんの指導を受けていただくことが一番です」。

○歯周病・上田教授「歯の健康と喫煙」紙面解説

歯周病学講座の上田雅俊教授が「リビング新聞」(サンケイリビング新聞社)11月6日発行の特別号で,「歯の健康と喫煙の関連性」について解説しました。



上田先生は、喫煙が癌や心臓病、脳卒中などの原因 となることはよく知られているが、歯の健康に関して も有害であることを指摘しています。喫煙は、血液の 循環が悪くなることで歯肉の炎症の発見を遅らせ、唾 液の分泌が抑制されることで細菌が繁殖しやすい環境 をつくり、さらにたばこのタールの歯の付着が歯垢や 歯石の付着の誘因になるとしています。こうした作用 で喫煙者は歯周病にかかりやすく、また治りも悪くな ります。

禁煙することにより、歯肉の血流がよくなり、徐々に健康的な色に戻ります。また、歯肉が腫れたり出血したりすることがありますが、これは喫煙によって隠されていた本来の症状が表れたためです。上田先生は、禁煙は歯周病の予防・治療のもっとも有効な対策のひとつで、禁煙へのチャレンジを勧めています。

第6回 人権標語入賞者

毎年,人権週間(12月4日~10日)に合わせて,人権 啓発推進委員会が人権啓発標語の募集を行っています。 今年度は,1年生・山崎観千人さんの「考えよう 相手 の心 自分の心」が最優秀作品に選ばれました。

表彰名	氏 名	作品
最優秀	山崎観千人	考えよう 相手の心 自分の心
優秀	安井 槇瑠	いじめゼロ スマイル 100 で 明るい社会
優秀	前住 領子	美しい 言葉の中に 差別なし
優秀	板垣 恵輔	声と声、心と心 感謝と笑顔で、 おもてなし
佳 作	海原 卓也	差別をなくそう 皆の力で!!
佳 作	栗村 法往	誰もかも 唯一無二の つぼみ抱き 皆咲き誇る 大きく小さく
入 選	大塚 雅仁	いじめはかってになくなら ない 自分たち 一人一人がなくすもの
入 選	高牟禮 武	ともそうよ 差別に対する いかりの心
入 選	東尾 麻由	誰も傷つけたくない 誰も傷つきたくない 読み人知らず
入 選	松本 大樹	僕はボク 私はワタシ みんな違って 当たり前

シドニー大学学生訪問

12月にシドニー大学歯学部の学生6名が本学を訪問し、楠葉・天満橋キャンパス見学をはじめ、特別講義ならびに臨床見学などのカリキュラムを無事終了しました。

特別講義はすべて英語で実施され、山本教授(歯科保存学)、大西講師(口腔外科学)、蒲生助教(歯科放射線学)が講師を担当しました。また、岡崎教授(欠損歯列補綴咬合学)引率のもと歯科医院の見学、モリタ本社工場(京都)の見学も行い、5日間の研修日程を終えました。

一方,学生交流では,8月にシドニー大学を訪問した3・4年生の学生たちが主体となって,京都・神戸観光などを積極的に企画し(訪問以前から連絡を取り合い),ウェルカムパーティーやさよならパーティーを通じて,シドニー大学学生との友情を深めました。



〇清水谷国際交流部長

8月に、シドニー大学に本学学生を引率された山本教授、橋本助教(歯科理工学)、益野助教(口腔病理学)には、今回の訪問を全面的にサポートしていただきました。また、通訳を担当していただいた藤田先生(英語)をはじめ、関係各位に多大なご尽力を賜りました。この場をお借りして、心から厚くお礼を申し上げます。

両校の学生が積極的に言葉を交わし、共に行動する 姿には目を見張るものがありました。国際交流を通じ て彼らが成長し、将来の糧となる貴重な経験を得たこ とは、我々にとって最大の喜びです。このような体験 を活かし,自らを動かす原動力とし,新たな物事にチャレンジしてもらえればと切に願う次第です。そして,学生たちに対して,できうる限りこのような機会を数多く提供できるよう,環境づくりに努めてまいりたいと存じます。

どうぞ、今後ともご支援・ご指導のほど、何卒よろ しくお願い申し上げます。

<特別講義の様子>



Neome Series

平成 23年 新年互礼会年頭所感 理事長・学長 川添 **堯彬**

ご参集の皆様方におかれましては、新年明けましておめでとうございます。今年も皆様とご一緒にこの新年互礼会をお祝いすることができましたこと、殊の外うれしく存じ



ます。そして、皆様がこちらへお集まりいただきましたことに、感激で胸いっぱいでございます。

今,ここに立ちまして,本学並びに関係者の皆様が ご健康であられることをこの上なくうれしく思います。 同時に,本学が昨今の厳しい世情の中にあって,これ まで無事に大学としての社会的役割を果たしつつ,博 愛,公益の責務を果たしてこられましたことに,本学 の理事諸兄,評議員諸氏,役員諸氏をはじめ,教授諸 公,大学・専門学校の教職員の方々,同窓会の方々,学 友会の方々,父兄会の方々,ご懇意の関係企業の方々, 皆様に対しまして,満腔より感謝の気持ちを捧げます。 本年も何とぞよろしくお願い申し上げます。

それでは、お時間を少々拝借いたしまして、大学の 理事会を代表し私から、年頭所感並びに事業計画など につきまして、パワーポイントを使いながら申し述べ させていただきたいと思います。しばしご拝聴お願い いたします。

〇今年の干支は「辛卯(かのとう)」

昨年は平成22年、「庚寅歳 (かのえとらどし)」でございました。「庚 (かのえ)」はしばらく停滞するようでございましたけれども、やがて更新に向かうだろうと。寅年は依存から自立へと伸びていくというような干支の運気が出ておりました。そして、本学を中心に見てみましたところ、やはり更新と若干の清廉の勇気があちこちに見られたような気がいたします。

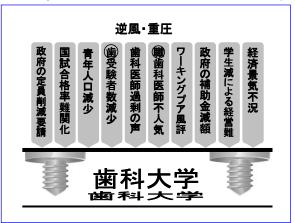
今年は、暦の上では「辛卯(かのとう)」の年でございます。平成23年、「辛卯」の年ということは、昨今も元旦からテレビ、新聞等でウサギ、ウサギといって、ぴょんぴょんと跳ねた飛躍の運気とも言われているようでございますけれども、それとはまた別に、この「辛(かのと)」と「卯(う)」ということは、どちらも非

常に強い運気を持っているようでございます。ウサギ の優しいイメージとはまた違って。

「辛(かのと)」は、実が熟成する字形を持っていまして、新生の波、革新、改革を経ますと、新たな成長を生む原動力になるという強い運気があるようでございます。「卯(う)」の運気ですけれども、地の気が充満して広がって、萌え立ち、茆(しげ)る。くさかんむりにしますと「茂る」という字義があるようでございます。いずれにしましても、これから新生の波、あるいは新規のこととか、再興に活性のときであるということで、字面とはまた違って、非常に活発な感じさえ受ける運気のようで、暦の上ではそのようになっております。

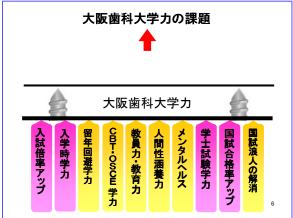
○本学を取り巻く状況と課題

これも昨年から使わせていただいた、我々歯科大学を取り巻く逆風あるいは重圧というものは、この10のこと、これにメディアとかいろんな風評を合わせますと「10の逆風」、「10の重圧」がかかっているというふうに整理されるかと思います。これもやはりメディアがつくった、実際はそれほど根拠のない、あるいは克服できなくもないということが、この1年間じっと見ますと、少し変わってきたような気がいたします。



それで、やはり、そういう風評の底の浅いものは、この10年、少し流れが変わってきたようでございます。依然として大学にのしかかっておりますのは、政府の定員削減要請である8%の削減、本学で言うと13人はどうしても減らしてほしいということを、事あるごとに文科省は迫ってまいります。それから、国家試験の合格率がだんだんと難関化するということ、これも現実の問題で、事実でございます。その他、これは周辺

の大学全般の、歯科大学だけではなくて、そういった ことにも。しかし、じっと待っていて、あるいはこつ こつと我々がその対応を練っている間に、こういった 逆風の様相は少し変わってまいりました。



大阪歯科大学の課題としましては, ここに挙げてあ るもの, 特に紫の色の部分をこの1年, 教授会の先生方 に相当頑張ってもらいまして, 入試倍率も後で申しま すけれども、全国で2位というところまで大分回復し ました。それから入学時の学力,これもいろんな教養 系の先生方で入学前準備教育だとか,推薦の場合は入 学式までにやっていただくような教育を始めてきまし た。それから学士試験、これは卒業の前の、やはり5年 生,6年生の学士試験の学力,これが国家試験の合否を 左右するということはつとに有名なことでございます けれども、国家試験の合格率とはペアになっておりま す。あとは、それぞれの教育力、教員力が持っており ます根本的なことですね。これは最初の4年間になさな いといけない。もう1つここに国試浪人の解消という, これはかなり重いということがわかってまいりまして, 先般の文科省のヒアリングにおきましても,このこと を指摘されました。こういったことがあります。

それでは、これからさらにどうするかということを、 方針は変わらないものもあれば、新たに加わるものも あるということでございます。

○建学の精神の再発見

我々は100周年になるわけでございますけれども, その大先輩がつくってこられた建学の精神というのは, それぞれのときにおいて,すなわち専門学校の前の大 阪歯科医学校の時代,専門学校の時代,そして新制大 学の場合というふうに,それぞれ建学の精神は立てら れて、微妙に修正されたりしております。

一番古い建学の精神を探してまいりました。明治44年12月12日といいますのは、100周年の記念の始まりである大阪歯科医学校が設立された日で、創立者である藤原市太郎先生が「学校経営事業は営利に非ず、博愛公益のために努力するものなること」という、この言葉を打ち立てまして、6年後に専門学校へ移行するときにその創立者となる古川賢治先生に、くれぐれもこの点だけはお願いしたいと委託してバトンタッチされたわけでございます。



これがくしくも、100年後の、あるいは95年後の今日において、この言葉は、世界的なレベルで、そのグローバルな内容において、最も誇らしい建学の精神のような感じが私はします。日本国内だけではなく、周辺の諸外国ともこの方針でやっていれば、学生は非常にやりがいを感じて、さらに大きく飛躍してくれることにつながるのではないかという思いを持っております。この言葉、この精神を、今日を境に学生教育に取り入れたいと思っております。

そこで、「博愛」と「公益」という言葉を字引で引いてみました。「人類全体の福祉増進のために」――これは「博愛」のところですね。かつ、「広く世人を益するために」――これは「公益」のほうですね。「全人類はすべて平等に相愛すべきものである」という、こういう立派な精神が脈々と明治44年から流れているということをご記憶いただきたいと思います。この創立者藤原市太郎先生の言葉は、本学の自校史といいますか、大学史の1巻に掲載されています。

〇「5つの力(りょく)の目標」の達成度

これまでの重点計画は,特に教学の重点計画に限定

して申しますと、「5つの力(りょく)の目標」というのを、平成20年から3年間、今、平成23年になりましたが、引き続き重点項目としているわけですけれども、これは主に校門のところとか教授会が行われている中会議室とかに掲示してございます。

教 人 教学 五 育 性 ク 涵 力 D 力 タ 9 向 の e **9** 回 標 復 力

13

これを見てみますと、大分回復しているのがあります。入試倍率が全国2位にまで回復いたしまして、学力と教育力の向上、これも大分、先生方が非常に、特に教員力に力を入れていただいて、大変にエンジンがかかってまいっております。それはまた後で申し上げたいと思います。

それから、人間性涵養力、これも入学して早期体験 実習とか早期の態度教育の中にも入っていますし、また、5年生、6年生の自習室で培われる涵養力もあるということを、最近、これも発見いたしました。

それから、教員人材育成力は、引き続き、今後10年間に相当有力な先生方が定年を迎えて、一応教育の場から去られますので、それを、どのように次の人を補充していくかということが大きな問題になってまいりました。

そして、この3年間で5つ課題はそのすべてが解決したわけではありませんけれども、それぞれ方針を立て軌道に乗っておりますので、次に懸案でありました「3つの力(りょく)の追加目標」というのを今年から立ち上げることにいたします。

〇「3つの力(りょく)の追加目標」

その「3つの力(りょく)」というのは、「学生の国際交流力の増強」というのが1つございます。これは、すでにシドニー大学とか、アメリカのコロンビア大学とか、中国の広州の大学など、学生の夏休み等を利用

して相互訪問という形で行っているのですけれども、 多くの学生がこれに一度参加しますと大変にモチベーションが高まりまして、帰ってきたら非常に頑張る人が急に多くなって、これはやはり学生教育に大きな力を生むものだと。同じ世代の諸外国の学生と1カ月、半月余り交流するだけなのですけれども、「もう一度ゆっくり交流しよう」とか、「まずは歯科医師になることが先決だ」と積極的に発言するようになり、モチベーションが非常に高まるような気がいたします。

こうした活動に対しては、理事会にお願いして助成金なりを考えていただき、それを支援していく方法をとるべきではないかと思っております。



もう1つは、「大学院力の増強」でございます。これは質、量ともにこれから大学院を増強していく必要があろうと。本学は、ここの楠葉キャンパスを建てたときの中央歯学研究所の設備たるや、見学に訪れた諸外国の方が、ほんとうに垂涎の的のような、大変に立派な研究設備が全部そろっていると。こうした研究施設を利用するため、本学の大学院へ留学といいますか、入学したいという希望がだんだん増えてまいりました。近隣の諸外国からも、アジアの諸外国からも、ほんとうに授業料は日本円のそのままでいいから何とか4年間、留学したいという人がだんだん増えてきましたので、そういったことへの対応もします。

それから、社会人入学制度もある。さらに、マスターコースという2年間のコースをつくりますと、専門学校の方がそこで2年間勉強することにより四大を卒業した資格が得られるとかいうことで、大学院をもっと活用したほうが、学部のほうは「減らせ、減らせ」というふうに募集をカットしてくることは事実でありますので、大学院の需要を喚起していくほうが、財務

改善の面からも有効なのではないかと思っております。 もう1つ、非常に気になっていることは、これは3年 前から気になっていたのですが, 本学は研究のパワー といいますか、教育に非常に力を入れた反作用かも知 れませんが、論文の数というか、そういったものが、 他の全国的な私立あるいは国立を問わず, 同系統のと ころに比べてやや少なくなっているような気がいたし ます。この「研究力の向上」に少し力を入れないと,バ ランスのとれた大阪歯科大学力が回復しないのではな いかと思っております。

〇平成23年度事業計画

そこで、平成23年度の事業計画でございます。

これは、3月の評議員会で審議をいただくわけでご ざいますけれども、教学の教育・研究や大学院のそれ ぞれの項目につきましては、3年前よりさらに前の5年 前から今井前理事長がこの大きな柱を打ち立てられま して、そのレールを敷いていただいたおかげで、この3 年間はその上へ積み重ねて、あちこちの成果がやっと 出始めたところでございます。さらにそれに拍車をか ける必要がありますので、2番目に「大学院力」を持っ てきました。それから、前から続いております「教員 人材育成力」の改革。

事業計画(平成23年度~)

- I. 教学(教育、研究)
- Ⅱ. 大学院力の増強目標
- Ⅲ. 教員人材育成力の改革
- Ⅳ. 附属病院の改革
- V. 両専門学校の将来像
- Ⅵ. 特別重点計画

附属病院も、大きな潜在能力を持ちながら、これが 十分生かされていないということが理事会での調査・ 分析によって明らかになってまいりました。これをも っといろんなパワーを持って改革し, 西日本で有数の 診療設備を持ち、立地の極めてすばらしい場所にある 附属病院は、いろんな活用の仕方があるのではないか という思いがございます。

それから, 両専門学校を, 我々のこの大阪歯科大学

の中にどのように位置づけていくかということがあり ます。他校から見ても、さらに海外から見ても、非常 にバランスのとれた総合的な歯科教育機関, 歯科医師 養成機関であるというところを、あるいはそういった アイデンティティーを示す必要があるのではないかと 思います。そういった視点から, 両専門学校の将来像 を構築したいと思います。

それから、この特別重点計画は、今年11月にござい ます同窓会と本学との100周年記念事業と、それから 来年,平成24年(2012年)の11月にございます第22回 の日本歯科医学会総会のことであります。歯科医学会 総会については、大阪府歯科医師会をはじめ多くの団 体のご協力をもとに開催できるところまで進展してお ります。

それでは、平成23年度の事業計画について少し詳細 に述べてまいります。

〇教 学(教育・研究)

これは、最初の「5つの力(りょく)の目標」の中の 1つの最も大きな柱でございます。

平成23年度からの事業計画

I. 教学-a

1. 募集ブランドカの向上

:入試倍率アップ

2. 入学時学力(第一次学力) :入学前準備教育

初年時教育

3. CBT学力(第二次学力)

:教育アドバイザー •65%合否基準

4. 人間性涵養力(教育力)

:共同学習・小グループ学習

5. 学士学力(第三次学力)

・学士太試合格

第5・6学年一貫制

·国試90%以上合格

まず、「入試ブランド力の向上」は、入試倍率がア ップしてまいりました。昨年, 国立大学を入れても歯 科全体の倍率が、実質倍率が2.何倍というその中に、2 倍以上の大学が私立で2校しかないといいます。その2 校はどこだと言ったときに、昭和大学と本学の2つで あった。あとはみんな1.8倍とか1.7とか1.6だとかそう いった倍率で続いている。本学は同窓会での力といい ますか、同窓1万5,000人もの卒業生に支えられた非常 に強い組織がございます関係もありまして, 本来のブ ランド力がだんだんときいてきたような気がいたしま す。

それから、学力を、「入学時の学力」を、やはり倍率が2倍以上、あるいは私は3倍以上欲しいのですけれども、そうしますと第1次学力が大分向上しますので、そこから128名なり115名を選抜した場合には、この時点で相当実力のある学生が入っておりますので、それを上手に、もうつきっきりでもいいから、少人数教育、チュートリアル教育、PBLを中心としてみっちり教育すれば、国家試験はほとんど心配要らないことになるはずなのです。それが、いろんなことで、そうした要件もありまして、これまでのように合格率があまり芳しくなかったというのもございます。

それから、CBTというのがあります。これに、どうも文科省がだんだんと力を入れてまいりまして、このコンピュータによる統一試験は、いわば1年生から4年生までの学力をここで一度テストする1次国家試験のようなもので、これを一回でパスするということが、実際の6年が終わってからの国家試験の合格率に大いに相関があるということが立証されておるわけでございます。

もう1つ、OSCEというのを病院内で行いますのが、これを病院で行うには今の天満橋の設備では少し問題があり、200人から250人が一度に使える講義室とか部屋がないと、だんだんとそれができないということがございます。

それから、「人間性涵養力」は、先ほどもちょっと申し上げましたように、態度教育で1年生から4年生まで各学年やっているわけで、学生部も非常に大きな柱の活動としてやってくれております。それから、クラブ活動も活発で、本学は伝統的にデンタル大会の出場範囲、種目も非常に多くあります。それがさらに、5年、6年は一般教育で共同学習、小グループ学習することで、随分と行儀がよくなるといいますか、何か人間的にも成長し、メンタルヘルス的にもしっかりとする、精神的に非常に強くなるような気がしますので、やっぱり6年生でも人間性涵養力の教育は必要なんだなと最近思っております。

それから、第3次学力の「学士学力」は、学士試験が1,2とあって、その再試験を経て国家試験。最終目標は国家試験90%以上の合格、これなら合格率のベスト3に入るでしょうから、まずベスト3に突入したいということで、そのためには第5学年と第6学年は一貫した教育をぜひともやらないと最後の締めくくりができな

いという感じになります。

過去11年間の推薦入試の志願者数をずっと見てまいりますと、実際の合格者数が28人の時代もあるんですが、この志願者数の方を見ていただきたいと思うんですけれども、去年から60人という数字が出ました。今年の志願者数60人を全国の17の私立歯科大学で言いますと、東京歯科大学に続いて本学が2番目であります。あとは非常に少ないですね。定員の50%ぐらいしか実際の募集が集まっていないというのが現状。そこにあって本学は2.何倍かが集まってきているということでございます。

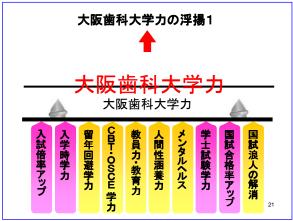
もう1つ, 教学面でこれを少し補足しますと, CBT 学力と学士試験学力を向上させる教育力がこの教育力 の最も大きな根幹で, これをよくしないと国家試験の 合格率が向上しないということがわかってまいりましたので, これに相当力を入れ始めております。 カリキュラムを来年から学年制にまた戻して, これを進めていこうと。そうして, 到達目標を設定する。

それから、このCBTは1回で合格しないと、「共用 試験実施評価機構」のところで国立と全く同じ基準で 評価されてしまいますので、ここであんまり悪い点は とっていると危ないことになってまいります。

それから、病院と同一学舎で一貫教育して、そこで学士試験力をアップして、国家試験に臨む形が最も効果的で、ここへ人間性涵養力の教育も一緒にできるということの、この6年間の歯学教育の中の最後の締めくりは、やっぱり5年、6年の両学年。この場合、お互いに学生同士が助け合うことの相乗効果もあるようでございますし、自習室をつくるだけであれほど学生さんが喜んで、家の勉強部屋から大学へ朝6時ごろから駆けつけてくるということが、この1年間に実際起こりました。ほんとうに奇跡のような形で、猛然と自習室に皆、競争で来ております。

国家試験の過去11年間の合格率の順位でありますけれども、これはずっと調べていまして、これでいろいろと目標設定をしました。合格率が落ちたときに設定いたしまして、昨年は6位まで行ったんですね。しかし、まだこの時点でベスト3に入っておりませんので、この104回以降の国家試験では随時ベスト3に入ることが次の大きな目標であろうと思っております。ほかの大学も危機感が相当ありますので、猛然と、特に東京の大学は猛烈に最後の6年生を猛特訓しているようでご

ざいます。本学も、自習室を中心として天満橋で猛特 訓をするという形に持っていくという方針がはっきり としてまいりました。



そこで、この紫色のところが一番大きなネックになっていたんですけれども、それをまず大分改善したら、次はこういった黄色のところを改善することによって大阪歯科大学が倍加して、浮揚力が2倍になると、そういう感じで思っております。

それをずっとこの3年間やってまいりまして,かなりのところが上がっております。しかし,まだ黄色のところで完全には実施されていない部分があります。特に手つかずのところがありまして,ここに国試浪人の解消というのがありますが,これが手つかずになっていることが本学の課題となっております。

〇大学院力の増強目標

続いて、事業計画のⅡに入ります。「大学院力の増強 目標」でございます。

平成23年度からの事業計画

重点計画

Ⅱ. 大学院力の増強目標

- 1. 大学院生の入学倍増計画
- 2. 募集定員の拡大、社会人入学の拡大
- 3. <mark>外国人入学・受入れの奨励</mark>
- 4. 専門医の課程, <mark>修士課程の増設</mark>
 - →研究力の活性化,教員人材育成力, 外部補助金獲得力向上

これもまず大学院生の数的補強といいますか, 増強 計画を打ち立てております。そして, それには募集定 員をできるだけ増やしたい。大学院研究科科長は今,「30人を超すんだ」ということで頑張っていただいておるわけでございます。

それから、社会人入学の拡大、これはもうそういう 制度はとれるようになっているのですが、これまで場 所的なハードルもあって現実の需要はそう多くはない のではということでしたが、これも将来に向け、もう 少し本気で考えていきたいと。

それから、外国人留学受け入れの奨励ということで、これはニーズというか、ぜひ、授業料は日本円で全くそのままでいいからということで、中国や韓国の富裕層の子弟が、そのままで下宿して、何とか4年間の勉強をしたいから入れてほしいというのが大分増えてまいりましたので、この100周年を機に、これにも力を入れていきたい。

それから4番目には、これは先ほどもちょっと述べました専門学校生用の修士課程の増設です。2年間コースということで、これは割合早くできると思いますので、ぜひ今年中にこの増設をしたいと思っております。また、専門医のコースというのも、これは文科省が「ぜひやってください、やってください」ということで言っているものであります。

こういったいろいろな種類の学生さんが大学院の中で一緒にやることが、これは言葉一つとっても英語が大分広まるでしょうし、集まった学生さんの持ついろんなモチベーションから言いましても、歯科の底辺の拡大につながることは間違いありません。それから、今まで気づかなかった歯科の需要ややりがいを発信してくれる人もいるでしょうし、こっちから、日本からも発信していって、日本人、大学院生を元気づける、そして留学へ結びつけるとかいうふうなことも可能ではないかと思っております。

〇教員人材育成力の改革

事業計画の3番目は、「教員人材育成力の改革」でご ざいます。

これも簡単にはいかないのですけれども、教員評価を2年前から実施しておりますので、これがだんだんできてまいりますと、自分を鏡に映してみて改善していこうというのが本来の教員評価の目的でありますので、任期制でそれを評価してやめてもらうということではなくて、評価を受けて教員も勉強しなおすという

ことですね。それが本来の教員評価の目的です。

平成23年度からの事業計画

重点計画

Ⅲ. 教育人材育成力の改革

- 教員評価→実施結果の分析と報奨・顕彰 「教員評価調査表」 「講義に対する授業評価表」
- 2. 第5・6学年を天満橋で一貫教育
- 3. 講義室・自習室の増設

→臨床系教員カアップ, 学士・国試の 教育カアップと病院の増収を図る.

23

講義に対する授業評価も取り入れましたけれども、これもそんなに大きなウエートを占めるものではない。やはり、教育者としての頑張り、講義には必ず予習をするとか、きちっとした資料をつくるとか。最近の学生はそういった面での評価は非常にまじめですし、真剣で、もし休講になんかなりますと、昔なんかは大喜びしたものですけれども、最近は教務課へ押しかけてきます。あまり教員評価をするのも、「授業料を返してくれ」と言わんばかりに乗り込んできますから、これは先生もうかうかしていられないと。特に休講はご法度です。一度の休講も本学にはないのが当たり前。休講は地震でも起こらない限りないという感じでやっております。

それから2番目には5,6学年を天満橋で一貫教育するということ。もうこれをやらないと、最後の場面で個人単位のばらばらで卒業していくことになる。それを1つにして、そしてそこで、1つのクラスというのはお互いに人ごとではないんだと。だから、少し成績低迷組を、リーダー的な人が出てきて助けてやろうじゃないかという、そういう形ができる。これが人間形成力、人間性涵養力につながることもあるということで、非常にいいほうに働くようであります。

同窓会でもわかりますように、やはり、その年のクラス会というのは死ぬまで大きなグループとして続いていくわけでございますから、それを最後、卒業する前の2年間あるいは最後の1年間でこれを上手に育てて、できるだけ留年しないで卒業して、国家試験も合格させる。これが、最後の詰めが甘いと、どうもそれぞれがばらばらにやるようになり、もう学校へ通わなくても、家でやっているだけで国家試験を受けるんだとい

うふうな学生ばかりになってきますと,これは本来の 教育機関としても求心力が働かない。

3番目の講義室と自習室の増設というのは、5、6年生の一貫教育と一体となっていて臨床系教員力のアップ、学士試験と国試の教育力アップ、さらには病院の増収にもつなげていきたい。問題は、最後には臨床系教員の授業がカリキュラム上多くなるのですが、この人たちがわずか1時間足らずの講義に楠葉まで往復2時間かけて通っているという現状では、どうしても学生とのコンタクト、質問に答えるとか、そうした機会があまりとれないことです。学生の教育面において、大きなマイナスですね。それと、その間は病院が空っぽになるというか、働き手の先生が全部京阪電車に乗っているという構図がイメージされるわけであります。

次の平成22年度までの教員の任用に関する課題は、 1番から4番まではほとんど総務部委員会でもって任用 基準、任用規程を全部つくりまして、もう実施できる 状態で、完全に動く段階になっております。すべてク リアすることができました。平成22年までにすべての 法規集までできて、規定が整備されております。

これも去年出したスライドですけれども、この10年間における教授職の欠員数を示しています。この中には専任教授も含まれると思うのですが、その欠員がある年にこのように固まっていたりして、平成27年までには13名の教授が欠員になってしまうと。優れた後継者がなかなか育っていないところもあるかもわからないという点で、何とかこれをしっかりと養成していかないといけない。その後の5年間でも12名が欠員しますね。現在の教授26名中25名までが今後10年間で全部総入れかえになるという感じでございます。これがすんなりと補充ができれば問題ないのでが、最近では教授の任用基準はかなり厳しくなっておりますので、うかうかとしておりますと、なかなか選べないということにもなります。

それから、教員のキャリアパスを見てみますと、明確な目標ができたという反面、どうしてもなかなか上へ上がれない者の中に、特に教授のときでひっかかりやすいのが、学術論文数の充足基準というのがありますね。この基準は、本学は他校に比べてかなり甘いにもかかわらず、ここの関門をなかなか充足できないケースが出てきています。これはやはり研究論文が少ない、研究が少し低調になっているということと軌を一

にするものではないかと思っておりますので、今回の「3つの力(りょく)の追加目標」の中で、この問題は解消されていくことを期待しております。

それから、これは具体的な論文数を示した表ですね。この資格基準では、特に教授の10編以上、あるいは10年以上の教育歴の方で20編、英語論文が10編とか、これがなかなかクリアできない人が増えてきております。また、准教授と講師の任用においても、この論文数というハードルがかなり出てきてまいりました。それから、臨床系の教員にとって案外、等閑視できないのが、専門医か認定医か指導医か、このいずれか1つ以上ないとその資格に欠けるという点もありますので、これも論文数の充足と同様にやってもらわないといかん。

〇附属病院と専門学校

最後の病院ですけれども、病院は早くから収支改善による健全経営という戦略を打ち立てております。その成果は着実に上がっておりまして、最近は、病院の改善が非常に著しくなってまいりました。

平成23年度からの事業計画

_

重点計画

Ⅳ. 附属病院の改革

- 1. 収支改善による健全経営戦略
- 2. <mark>先進医療</mark>の態勢整備
- 3. 病院運営貢献者への顕彰・報奨
- 4. 号 考慮の支出, 経費の見直し
- 5. 各部署の収支改善策を提案, 実行

28

そこへ加えて、新しい計画を現病院長のところで打ち立ててくれております。それは先進医療の態勢整備というか、これがやはり全国的に見て、国の将来的な戦略の1つであることがわかりました。中には日本医師会とか歯科医師会とかそういったところでは消極的なものがありますけれども、他の省庁でこれを進めようと。神戸には大きな先進医療の設備が今、建設中だと聞いておりますので、1~2年後にはそれができて、グローバルに患者さんをここで検査したり、手術したり、あるいは治療したりする。検査のついでにといっては何ですが、観光も一緒にしてくるという、そういう設備。それが本学でもこの先進医療の中に、これは保険

法で言う先進医療ではありませんけれども,全般的な 高度先進医療のことです。それを指定される病院にな り,指定されておることを獲得したといいますか,そ うしましたので,中身をそれに対応できるようなもの にしたい。

それから、病院の中で大分頑張っていただいている 人がいます。そういう人には何か顕彰とか報奨をして いかないと、これは一生懸命やっている人も、病院で あまり活動されない人も同じでは、だんだんとまた低 いほうに水が流れる形では改善はできないということ で、この黄色で書いてあるところには特にこれから力 を入れたい事業計画でございます。

平成23年度からの事業計画

重点計画

Ⅵ. 両専門学校の将来像

- 1. 「専門学校財政改善等検討委員会」へ付託
- 2. 募集定員を減らすなど改善策を実施
- 3. 短大化の検討
- 4. 大学院修士課程へ接続

29

専門学校ですね、2つございますけれども、これはやはり募集定員ですね。募集がどうしても少なくなってくるというあれを抱えているんですけれども、その中でも、よく見ますと非常に健闘しているところがあります。それから、専門学校が、歯科衛生士などのように3年制が義務づけられたところもありますので、これを短大にするという方向はやっぱり避けて通れないんじゃないかという気もいたします。それから、修士課程へ接続させるという、これはとにかく対症療法といいますか、当座、先にこれをやっておいて、だんだんと短大とか四大とかそっちへ持っていくという、まずこの3と4は近未来というか、できるだけ早くこれをやらないといけない。

今度は,この浮揚力に。

大分この3年間でやってまいりましたので、この状態の結果が出るのはまだ1年後、2年後かもわかりませんけれども、この残った3つはまだ少し立ちおくれていますので、どう見ても国立と一緒に勝負しないといけないCBT、それから留年が多いというのも本格的に

なってきますので、これをうまくやっていく力をつけ ていく勉強法。

それから、国試浪人も大分たまってきておりますので、これは現役で今まで論じていたんですけれども、ついに今年のヒアリングにおいて、やっぱり浪人は計算に入れてしまって。これで入れられますと、いつも合格率が60%台になってしまうので、これを何とかしないといけないというのが今後の問題です。今年からこれに注力をしたいと。

○創立100周年記念事業と歯科医学会総会

さて、最後に、特別重点計画が2つございます。

Ⅵ. 特別重点計画 平成23年度 **■点計画**

- 1. <u>創立100周年記念事業</u>の推進
 - ·平成23(2011)年開催
- ・「創立100周年記念事業常任委員会・実行委員会」の設置
- ・理事会、教授会、同窓会からの協力態勢
- ・式典2011. <mark>11. 11</mark>および記念講演会<mark>11. 12</mark> 💞
- ·全国同窓会会員大会2011. 11. 26



いよいよ創立100周年記念事業をこれからどんどん やってきます。今年,平成23年(2011年),これをや るのは,理事会のところに常任委員会,実行委員会も これから活動してまいりますけれども,その設置がさ れております。理事会,教授会,同窓会からの協力態 勢が得られております。式典は2011年11月11日,そし て記念講演会は翌日の11月12日にリーガロイヤルホテ ルと国際会議場で行われます。それから,今度は同窓 会のほうですけれども,全国同窓会会員大会が11月26 日にあります。この前後にも100周年関連事業が幾つか 既に計画されておりますし,今後も計画されていくも のと思われます。

どんな記念事業をやるのかと。柱として7本の事業が 設定されております。まず,理事会の常任委員会で設 定された記念式典。これは慰霊祭も行います。

それから、本学発祥の地であります、現在の福島区 野田4丁目に記念碑を建設するということも進んでお ります。

それから, 記念事業募金は, 卒業生の方々, そして

年が明けたこの1月から関連企業の皆さんへもお願い していこうということで、これを立てております。

創立100周年記念事業について 平成21年5月28日 企画委員会

スローガン:<mark>「誇りと誓いー蓁蓁たる大樹へー」</mark>

大阪歯科大学創立 100 周年

記念事業の柱:

- ①記念式典 2011年11月11日(金)
- ②本学発祥の地への記念碑設置
- ③記念事業<mark>募金</mark>
- ④天満橋へ<mark>講義室建設</mark>
- ⑤出版物の刊行(100年史,院50年史の刊行)
- ⑥記念講演会·公開講座 11月12日(土)
- ⑦歯科医学の歴史的資料(史料)の収集

32

これは、今一番必要性の高い天満橋へ講義室を含む 記念ホール、記念館をどうしても建設したい。これは 今後50年、100年ともつものを建立する必要があると 思っております。

それから、100年記念史、大学院50年史の刊行もございます。

それから記念講演会・公開講座は12日の土曜日に。 講演の柱としては、世界の大学の戦略、世界の大学は 今世紀、これからどう進んでいくのか。それと、再生 医学の将来に関すること、3つ目は文化人の講演、この 大きな3本立てで記念講演を計画しております。

最後に、歯科医学の歴史的資料、楠葉へ15年前に移転するときに少し収集を始めていたのですが、それを基に散逸している資料を少しでも整理して、歴史的資料を残したいという、そういう1番から7番の計画を立ております。

これまで、こういう組織態勢で記念事業の準備を進めてきましたが、それが実行委員会のほうへ移っていくということで、主に理事、教授が中心でございましたけれども、これからほかの教職員が実行委員会に入ってまいります。それがこれからでございます。

もう1つの特別重点計画は、第22回の日本歯科医学会総会の主幹を21年ぶりに引き受けまして、もう大阪へなかなか来ない、最後じゃないかと言われているのですね。それは来年、12年11月9、10、11日の3日間、中之島の堂島のところのリーガロイヤルとグランキューブ、それともう1つは南港の咲洲にあるインテックス大阪、この2つの会場において開催いたします。

もう1つ新しい試みは、初の共同催事というのがあ

ります。これまでは全部プログラムは1つの委員会でやっていたのですけれども、今回は各分科会、今、歯科医学会には39の分科会、専門分科会と認定分科会がありますが、各分科会がそれぞれ場所代を出し合って、いわばランチョンセミナーのような形で、公開講座も含めて主にインテックス大阪の2号館を全部借り切ってやることになっております。

Ⅵ. 特別重点計画

重点計画

2. <mark>第22回</mark>日本歯科医学 会総会の主幹



OSAKA 2012

- 平成24(2012)年11月9~11日
- ・21年ぶりの主幹校の招致
- ・分科会との初の共同催事

34

メーンテーマは、「お口の健康 全身元気ー各世代の最新歯科医療ー」に決まっております。シンボルマークも、この文楽人形の顔をモチーフにしたもので、口の中が真っ白になっていて、いろいろな歯科の予防とか治療に関すること、またすべての歯科分科会なども皆ここからアクセスできるようになっています。アクセスすることによって、まゆ毛と眼球、この赤くなった目ですね、それがつり上がるようになっていて、口を治すことが全身の元気につながることを象徴しているシンボルマークでございます。顔をシンボルマークにしたのはこれまでで初めてだと言われておりますけれども、大阪は文楽発祥の地であり200年来の伝統がありますし、国立文楽劇場をはじめ淡路人形浄瑠璃もございますので、これがぴったりじゃないかという感じで決まったわけでございます。

そういうことで、創立100周年、よろしくお願いいた します。私のほうのプレゼンテーションはこのような 事業計画と年頭所感を申し上げました。

ご清聴いただきまして、大変ありがとうございました。

--- 平成23年1月5日楠葉学舎講堂にて







創立100周年記念事業募金 寄付状況報告

創立100周年記念事業募金につき、同窓はじめ関係 各位に寄付をお願いしています。平成23年1月31日現在 での寄付状況について報告いたします。ご寄付いただ きました各位には心より感謝いたします。

◎ 寄付金額

	件 数	寄付金額
法人・団体	11	13, 845, 000
個 人	314	26, 785, 000
合 計	325	40, 630, 000

(平成23年1月31日現在)

◎ 寄付者ご芳名

〇法人・団体(50音順)

株式会社 アソインターナショナル	様
「一黎会」(大学1回)	様
医療法人 医真会	様
大阪歯科学会	様
大阪歯科大学学友会	様
大阪歯科大学口腔解剖学講座	様
大阪府歯科医師会泉北支部	様
医療法人 社団 柴田医院	様
セレック株式会社	様
有限会社 プラザフォーティーン	様
「黎明会」(大学38回)	様

〇個 人 (ア行)

合田	耕太郎	様	青江	俊介	様
赤尾	一成	様	朝井	功	様
芦田	克巳	様	安達	忠司	様
天野	義和	様	新井	是宣	様
有田	清三郎	様	有馬	健雄	様

有山	金一郎	様	生野	博	様
池田	祐治	様	石浦	和子	様
石川	春美	様	石川	美晴	様
板倉	紘一	様	市場	寛人	様
逸見	智康	様	伊藤	公雄	様
稲川	実	様	稲田	貴代美	様
稲村	宗男	様	揖場	克次	様
今村	文四郎	様	岩井	廣茂	様
岩井	康智	様	岩城	正弘	様
岩本	助幸	様	上田	一郎	様
上田	雅俊	様	上田	実果	様
宇野	昭信	様	江口	宗昭	様
大浦	清	様	大島	輝武	様
大島	浩	様	太田	一男	様
太田	謙司	様	大畑	裕彦	様
大本	博	様	岡	『恭	様
小懸	泰道	様	岡崎	景	様
岡崎	定司	様	岡正	利一	様
岡村	敬次	様	岡本	新	様
岡本	吉司	様	小川	雅央	様
奥野	薫	様	奥村	洋二	様
小谷	泰生	様	小野	雅央	様
小幡	登	様	小渕	冨美子	様

〇個 人(カ行)

加奥	奏哉	様	垣内 英也	様
覚道	健治	様	筧 晋平	様
梶原	公彦	様	片岡 壽平	様
勝藤	大輔	様	加藤 イツ子	様
嘉藤	幹夫	様	門田紀	様
金山	浩一	様	金子 充親	様
金平	裕久美	様	鎌田 愛子	様
蒲生	祥子	様	鴨打 俊治	様

川合	進二郎	様	川上	隆彦	様
川添	堯彬	様	川添	優子	様
川本	博男	様	神田	昇平	様
岸保	文雄	様	菊池	宣夫	様
鬼頭	俊雄	様	木下	保	様
木村	圭助	様	國島	政雄	様
国富	昌司	様	熊崎	眞義	様
栗岡	一人	様	栗田	賢一	様
黒田	収平	様	小出	武	様
高津	匡雄	様	河野	多香子	様
河野	通久	様	小谷	順一郎	様
小林	直克	様	小正	裕	様
近藤	幹雄	様			
〇個 人	、(サ行)				
酒井	正道	様	坂尻	光春	様
阪田	昌英	様	坂本	厚	様
阪本	充	様	佐久間	動	様
佐久間	泰司	様	佐藤	俊一	様
佐藤	武	様	佐藤	学	様
佐ノ木	幸夫	様	更谷	啓治	様
静間	紀佳	様	篠原	光子	様
清水	一彦	様	清水谷	〉 公成	様
下田	照子	様	庄 ·	र े	様
正司	武	様	新谷	弘子	様
仁保	光昭	様	末武	伸敏	様
諏訪	喜恵	様	諏訪	文恵	様
諏訪	文彦	様	関本	恵一	様
添田	栄造	様	園本	美惠	様
〇個 人	、(タ行)				
大郷	英里奈	様	高井	規安	様
ㅎㅁ	4 ± マ	+*	÷m	п #	+ *

高尾 純子 様 高田 易典 様

高橋	清	様	高橋 士朗	様
高橋	正生	様	高山 泰幸	様
武市	甫	様	武田 元一	様
武田	昭二	様	立花 京子	様
田中	昭男	様	田中 順子	様
田中	資郎	様	田中 誠也	様
田中	忠幸	様	田中 巽	様
田中	昌博	様	谷 幸治	様
田幡	治	様	田村基政	様
千葉	亮	様	津尾 道雄	様
塚本	幸子	様	塚本 芳雄	様
柘植	昌保	様	辻 準之助	様
辻 治	告洋	様	津田進	様
津谷	良	様	土屋 健司	様
筒井	淳	様	土肥 哲彦	様
堂前	尚親	様	徳高 良造	様
戸堂	博之	様	富澤 正直	様
冨田	博	様	冨田 基雄	様
富永	和也	様	豊田 紘一	様
豊田	俊	様	豊福 英市	様

〇個 人(ナ行)

仲 秀	§ 俱	様	中尾	昌彦	様
中川	智英子	様	中川	宏	様
長澤	健一	様	中嶋国	國博・悠子	様
中嶋	正博	様	中谷	祥二郎	様
中塚	昌伸	様	中西	淳一	様
中西	洋介	様	中野	健一郎	様
中原	一彰	様	中村	祥子	様
中村	廣志	様	中村	誠之	様
西岡	偉克	様	西川	泰央	様
西嶋	克巳	様	西出	修	様
西村	暢宏	様	西村	満夫	様

新田	賢	様	二宮	隆	様
根住	正博	様	野上	清豪	様
ノグラ	チ カツコ	様	野口	勝弘	様
野瀬	博之	様	野田	真	様
野田	美和子	様	農端	健輔	様
農端	俊博	様			

〇個 人(ハ行)

橋本 猛伸	様	長谷川 信也	様
長谷川 博	様	羽田 恭彦	様
花谷 正明	様	林 弘子	様
林 宏行	様	原 和子	様
原 久史	様	伴 宏樹	様
肥後 文章	様	日野 哲雄	様
深尾 章	様	福家 秀一	様
藤井 諭	様	藤井 章司	様
藤井 弘之	様	藤岡 俊二	様
藤高 洋一	様	藤原 眞一	様
藤原 進	様	古川順康	様
古川 壽男	様	別當 敏	様
方 一如	様	堀田 雄一	様
堀切 卓	様	堀口 靖史	様
本城 範典	様		

〇個 人(マ行)

前川	英太郎	様	前田耿二・美貴子	様
前田	眞治	様	牧浦 斉	様
牧田	佳真	様	牧谷 弘幸	様
牧平	幹生	様	真喜屋 恒代	様
増田	次郎	様	増田 裕弘	様
松井	康彦	様	松谷 哲博	様
松本	修二	様	松本 尚之	様
三上	正彦	様	三戸岡 直樹	様

宮崎	哲	様	宗金	龍二	様
村上	晃	様	村上	斎	様
村上	昌央	様	村上	勝	様
村上	義和	様	村上	よし子	様
門司	研一	様	森		様
森島	秀一	様	森田	章介	様
諸井	英世	様			

〇個 人(ヤ行)

薬師寺	F 毅	様	矢谷	慎一郎	様
矢野	一郎	様	山上	剛史	様
山下	敦	様	山田	香	様
山田	重樹	様	山田	尋士	様
山田	隆一	様	山本	一世	様
山本	佳津	様	山本	範子	様
山本	嘉治	様	吉田	博昭	様
吉田	良子	様	吉福	亜紀	様
吉村	里美	様	吉村	敏行	様
米田	正器	様			

〇個 人(ワ行)

 和田
 喜久雄
 様
 綿谷
 和也
 様

 和唐
 功
 様

- *匿名希望者は、記載しておりません。
- *ご芳名は、一つに限らせていただきました。



事務局

人 事

称号授与

名誉教授 堂前 尚親 H. 22. 10. 1付

教員採用

解剖学講座助教 前田 光代歯科理工学講座助教 岡田 正弘以上 H. 22. 10. 1付

昇 任

有歯補綴咬合学講座 講師 田中 順子 H. 22. 10. 1付

依願退職者

細菌学講座助教 杉森千恵子耳鼻咽喉科学講座助教 竹田 浩子以上 H. 22. 12. 31付

委嘱

平成22年度 第6学年特別アドバイザー

有田清三郎,岡崎 定司 松本 尚之,王 宝禮 隈部 俊二, 内橋 賢二 山中 武志,篠原 光子 今井 弘一, 三宅 達郎 吉川 一志, 髙津 兆雄 髙橋 一也, 古跡 孝和 戸田 伊紀,井上 博 田村 功,和唐 雅博 富永 和也,山根 一芳 野﨑 中成,大島 浩 川崎 弘二, •田 匡宏 柏木 宏介,兼平 治和 吉田 博昭,大西 祐一 飯田 拓二,竹安 正治 加藤 裕彦,上田 甲寅 以上 H. 22.10.13付

大阪歯科大学創立100周年記念館(仮称)

建設委員会

 委員長
 下村錢三郎

 副委員長
 伊達 洋彦,岡 邦恭

 委員
 三谷 卓,覚道 健治

田中 昭男,諏訪 文彦 豊田 紘一,小正 裕 佐ノ木幸夫,上田 雅俊 生駒 等,松田 毅 中村 廣志,長谷山則夫 亀井 崇,中尾 昌彦 松村 誠一

以上 H. 22.10.28付

あとがき

いよいよ、創立100周年の年を迎えました。東京歯科大学、日本歯科大学に次ぎ日本で3番目に迎えるわけです。実は、その2校以外にも本学より先に設立されていた学校がありました。京都にも、愛知にも。しかし、国からの援助も何もない時代にあって、財政的な事情で学校を存続させることはできませんでした。本学も例外ではなく、苦しい財政の中で何とか学校を継続させてきたのが実情です。そこには、この学校を継続・発展させていくのだという強い意思がありました。

新年互礼会の挨拶で川添理事長が述べられた,創立者・藤原市太郎の「学校経営事業は営利に非ず,博愛公益のために努力するものなること」という言葉がそれを表しています。この言葉が原動力となり,指針となって今日までこの学校を支えてきました。また,本学のルーツが当時の歯科医師の寄付に基づき設立されたように,戦後の教育変革期においても同窓生,父兄(学生),そして大学(教職員)が三位一体となって大学設立,大学院設立に協力しています。

創立100周年の諸行事を成功させるには、同窓、父兄、 大学の三位一体となった協力が不可欠です。

> 大阪歯科大学広報 第 1 6 0 号 発 行 日 平成 23 年 1 月 31 日 編集発行 広報委員会 〒573-1121 枚方市楠葉花園町 8-1

電話 072-864-3111